



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

月島雲母保育園



#### テーマ【 自然との関わり 】

##### 設定した理由・背景

都心にありながらも近隣の公園に豊かな自然環境があるため、子どもたちが日々何気なく触れている【自然との関わり】をテーマに設定した。日常の保育のなかでも自然散策への関心が強く、散歩に出掛けると生き物や植物探しに夢になっている。四季の移り変わりの中で、咲いている花や身近で暮らす生き物など、それぞれの自然の変化を感じ、興味を広げていけると感じた。

##### 用意した環境設定

- ・雨の日散歩にも行けるよう、雨具を準備する
  - ・色んな植物や動物に出会えるよう、お泊まりキャンプに行く
- ≪購入したもの≫  
虫かご、超観察ルーペ、カラーペンなど

#### 活動のあゆみ

・春～夏の時期は月島川や隅田川など、自然豊かな場所を中心に散歩へ出かけ、植物や昆虫を中心に探す。普段の散歩だけでなく、雨の日も散歩に行き、晴れの日と雨の日の違いを感じたり、雨の日ならではのものを発見する。

・8月年長児がお泊まりキャンプに参加し園近くでは見られない植物や動物を探し、園に帰ってから絵本や図鑑で調べる。

また、見つけたものを保育者や年下のお友達に共有する。

#### ✧探究活動の実績✧

自園では園庭が無いので戸外散歩に行くことが多く、その際に月島川や隅田川の河川敷に行き、クラゲやダンゴムシを見つけ楽しんでる姿があった。また、プランターでの栽培をしていた際、生えた植物が自分たちが植えたものか、自然と生えたものなのか興味を持っている姿も見えた。そこで保育者が「園の近くにはどんな植物があるのかな」「園から離れた場所にはどんな動物がいるのかな?」「やぎってどんな物を食べるのかな」などを問いとして設定し、自然をテーマとして調べてみることにした。

春～初夏の時期は過ごしやすい日が多いため、近隣での散策活動を行った。雨の日はレインコートを着用し「雨の日散歩」を実施。6月の梅雨の時期は、頻繁にその機会があった。出かけた園児たちは「ミミズが沢山いた!」「どうして雨の日はミミズが沢山いるんだろう」という発見があったので、近くの図書館に行き、調べたりした。調べる前には「木の枝に雨が当たってミミズになったんじゃないか」と答える園児もいたが、本で調べると納得した様子だった。

8月に年長児は姉妹園17園と一緒に千葉県のアパルトメントでお泊りキャンプに出かけ、動物や自然を通して姉妹園交流で言葉の伝え合いを行った。姉妹園の子とシャッフルでグループを組み、ふれあい動物園でヤギやクジャクへ餌やりを行う機会もあった。餌やりの中で「こっちは男の子かな」「クジャクが羽を広げるのはどうして」という問いが生まれ、保育者が問いに答える場面もあった。自園の子は住んでいる場所柄動物を見慣れておらず、びくびくする場面も多く、最初は怖がっていたが、姉妹園の子が驚かずに触れているのをきっかけに近づけるようになり、最終的にはみんなで餌やりしたり、動物を撫でて触り心地を楽しむ姿があった。

動物に餌をあげる様子



雨の日散歩。  
落ちた花びらを袋に詰めると雨水が  
たまって色水になった様子



#### まとめ

雨の日戸外へ出て、匂いや音を聞くことで、いつもの散歩とは違う発見や興奮が見られ子どもたちは特別感を感じていた。また雨上がりに戸外へ出て探索をすると、普段とは違う自然物の様子に気がついてきた。

夏のお泊りキャンプでは、見慣れない動物に怖がりながらも、興味を持ったものを追求しようという意思が見られた。保育者も都度声をかけ、園児が怖がらないようケアを行った。今年度は暖かい時期を中心に活動を行ったが、秋の紅葉や、冬の霜柱等にも興味を持っている姿があったため、次年度は秋冬にも探究活動を行いたい。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

月島雲母保育園



#### テーマ【言葉・異文化コミュニケーション】

##### 設定した理由・背景

新規開園当初から「ワールドライブラリー」という世界各国に興味関心を持てるような絵本との関わりにより、異文化に興味を示していた。「この国はどこにあるの?」という子どもたちの素直な疑問や不思議を広げていきたいと考えた。

また自分と他者、文化の違いを遊びの中で伝える喜びや、発達に応じた内容に触れる中で、異文化に慣れ親しめる時間を通じて言語や感覚だけでなく、自己肯定感を高め、好奇心・探求心を育てていきたいと考えた。

##### 用意した環境設定

- ・色んな国を知って貰えるよう、世界地図を掲示する
  - ・外国人講師に直接交流できる機会を設け、海外の文化や言葉について知って貰う機会を作る八木の
  - ・海外の歌を歌ったり、曲に合わせてリズムをとる
- (購入したもの)スクリーン、プロジェクター、色鉛筆、生活科ボードなど

#### 活動のあゆみ

・異文化を知るために、ワールドライブラリーを読み聞かせし、世界地図を通して毎月違う国の国旗や写真を準備して、異国文化に興味を持てるような活動を行う。

・外国人講師とオンラインで繋がり双方向でやりとりをする(毎日15分×週5日)

会話などのコミュニケーションだけでなく、海外の文化や曲、踊りなども画面を通して見せてもらい、海外での生活を想像する場面もあった。

・各国の国旗の作成等の制作活動(週1回)

#### ✿探究活動の実績✿

自園では、ワールドライブラリーを利用し、世界の色々な絵本を読む機会があった。また、中央区という土地柄、外国の人を目にする機会も多く、興味を持っている姿が多くみられたため、「言葉・異文化コミュニケーション」というテーマに設定した。

ワールドライブラリーの絵本を通して知っていた各国の国旗や景色、食事などの掲示物を行った。「この国はどこにあるの?」と保育者が問かけると、世界地図を指して教えてくれる姿や、「海外の人と話してみたい!」という言葉が上がった。そこで、オンラインを通して海外の講師とコミュニケーションをとれる機会を設定した。掲示物も、毎月異なる国に変更することで、言葉や文化、歌、踊り、挨拶などの特色を調べ、実際に挨拶を試みる姿があった。特に海外に行ったことのある子どもたちは、実際に行ったときに国旗を見た話などをする姿もあった。

保育者は絵本を使いながら「世界にはたくさんの言葉があるのかな?」「ワールドライブラリに出てくる国には、どんな動物がいるのかな?この動物や鳥はかわいいかな?」を問いとして設定して、子供たちも絵本を見ながら話し合う姿が度々見られた。異文化を知る事に重点を置くことで、世界には様々な国があることに興味を持っている姿があった。

また、外国人講師と毎日15分間、午睡前に3~5歳児クラスの子どもたちがオンラインを通じて双方向のやりとりに参加することで世界に興味を持っていくよう働きかけた。外国人講師の英語に興味を持ち、名前を呼ばれると返事をしたり、クイズ形式にも「イエス」「ノー」と元気に答える姿が見られた。



例: 3歳児クラスが英語の歌のダンスに取り組む様子



#### まとめ

異文化コミュニケーションを始めた頃は、外国人講師が何をいっているかわからず受け答えができなかったり、すぐに飽きてしまう姿があった。しかし、保育者とワールドライブラリーを使用して異国文化を伝え合う事と、このオンラインを毎日継続していく事で、だんだん講師とのやりとりを楽しみにする姿があった。保育者も、講師と子どもたちの間に入り、お互いの伝えたいことが伝わるよう努めたり、園児の外国語の挨拶に返事するなどして、園児の探求心が高まるよう貢献した。御父母へ活動のことを伝えたとこ、家でもよく英単語をしゃべっていたり、異文化交流の話をするという意見も得られ、子供たちの生活にも影響を大きく与えていると実感した。